一括発注（弥彦村議会否決）2億2118万円に対し

可決の分割発注1161万円、5.2％増額

おもてなし広場など7件入札

外構工事はマルタ建設落札

弥彦村は二十八日、おもてなし広場フードコート等整備（外構整備）工事など七件の入札を行いすべて落札した。おもてなし広場外構整備工事は燕市吉田矢作、㈱マルタ建設（本田浩紀代表取締役）が一千七百五十五万円（税抜き）で落札した。

おもてなし広場フードコート等整備事業は国の地方創生拠点整備交付金を活用し、フードコート、観光交流促進販売施設（喫茶、そば打ち道場、土産物）、がん木などを整備する。

当初は建築本体、電気設備、機械設備を一括発注として業者を決定したが、議員から分割発注にして地元業者に請け負ってもらうべきなどの反対意見が出て、議会で工事請負契約の締結は否決された。

そのため、村では入札方法を見直し、工事を建築一式、電気設備、機械設備、外構整備の四つに分割して発注することを決定。分割発注で増加する事業費を縮減するため二段階に分け、第一段階で建築一式、電気設備、機械設備の三つ、第二段階で外構整備の入札を行うことにした。

第一段階の三工事は六月三十日に入札を行い、七月十日の臨時議会では建築本体工事の契約の締結を全会一致で可決した。

外構工事の入札は制限付き一般競争入札で行い、弥彦村三社、燕市一社の計四社が参加。弥彦村の三社は予定価格一千八百八万円を超過し、マルタ建設が唯一、予定価格を下回った。

予定価格一千八百八万円に対する落札率は九七・〇七％だった。

第一段階の三工事の契約金額（税込み）は、建築本体工事一億五千六百六十万円、電気設備工事二千四百四十万八千円、機械設備工事三千二百八十三万二千円の合計二億一千三百八十四万円。今回の外構工事を含めると全体の契約金額は二億三千二百七十九万四千円になる。

議会で否決された一括発注の契約金額は二億二千百十八万四千円。分割発注にしたことで一千百六十一万円、五・二％の増となった。

工期は入札日から来年三月十九日までの二百三十五日間。八月から本格的に着工し、来年三月のグランドオープンをめざす。

おもてなし広場以外の六件はすべて指名競争入札。落札金額（税抜き）の合計は三千九百五十二万円。予定価格五千六百六十九万円に対する落札率は六九・七一％だった。

入札の結果は次の通り。契約金額はすべて税込み。

△**おもてなし広場フードコート等整備（外構整備）工事**　㈱マルタ建設、契約金額一千八百九十五万四千円、落札率九七・〇六％、工期二百三十五日間

△**やひこの里高圧受変電設備更新工事**　㈱高倉電気商会、八百七十四万八千円、九〇・三〇％、百日間

△**小規模多機能住宅前側溝敷設替工事**　㈱小林組、百四十七万九千六百円、六九・一九％、六十日間

△**大戸峰見線消雪パイプリフレッシュ工事**　㈱小林建材、一千十九万五千二百円、六四・七〇％、百二十日間

△**麓二区地内消雪パイプリフレッシュ工事**　㈱マルヤマ、一千三百八十五万六千四百円、五五・九八％、百二十日間

△**村道二松団地中山線測量設計業務委託**　㈱近藤測量設計、四百二十九万八千四百円、九二・五六％、九十日間

△**橋りょう定期点検業務委託**　エヌシーイー㈱、四百十万四千円、九六・六九％、百二十日間

魚沼違法肥料影

『うしのたいひ』『魚

立入検査とサンプル検査　農産

新潟県は、魚沼市と南魚沼市の肥料製造業者による肥料取締法違反事案で二十八日、成分検査の結果を公表し、どちらの業者の製品も有害成分の許容含有量を下回っており、問題の肥料を使って生産した農産物でも安全性には問題ないとした。

今回の違反事案はどちらも「堆肥（特殊堆肥）」として製造した肥料の原料に、凝集促進材を添加した「家畜ふん」が使用されていたもので、凝集促進材は家畜排せつ物の処理を容易にするため、固形物と水分を分離しやすくさせる添加剤だが、凝集促進材を使った「家畜ふん」を原料に使った堆肥は「汚泥発酵肥料（普通堆肥）」に分類され、製造には農林水産大臣への登録が必要だが、魚沼市、南魚沼市ともに製造業者は登録を行っていなかった。

問題となった違反堆肥は南魚沼広域有機センター製造の「うしのたいひ」と、魚沼市有機センター製造の「魚沼ロマン有機堆肥」の二製品で、「うしのたいひ」は南魚沼市と魚沼市で平成二十七年四月からこれまでに計八千五百七十五トンが販売され、「魚沼ロマン有機堆肥」は魚沼市と長岡市川口地域で同じ期間中に五千三百七十三トンが販売さ